



# 南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

## 今年の教区の目標

平和は聖なるもの 神のみ旨  
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年3月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第808号 (3月号)

## 2月11日、安里教会にて第53回那覇教区の日、感謝ミサと祝賀会が行われました。

教区の信徒・修道者・司祭が集い、感謝の祈りを捧げました。



教区の日を祝った司教、司祭、修道者と信徒たち



ウェイン司教からお祝いの祝福をいただいた皆さん



お祝い頂いた皆さんでケーキカット

ウェイン司教から、レイ司教が神戸で捕虜となり、解放後、那覇へと着任されたことから、当時、奄美で押川司教がまだ少年であったこと、今に至るまでの感謝を述べられました。そして那覇教区へ着任され、まもなく一年が経つ紙崎神父(石川教会主任)、浜崎神父(開南教会主任)、また復活節以降から大西神父(パウロ会)が着任されることを紹介されました。叙階25周年のデニス神父には司祭職への感謝、シスターレジアに修道生活25周年への感謝を述べられ、

そして花束が贈呈されました。また、ベトロ神父は叙階70周年にあたり、マキシム神父が代理で花束を受け取られました。そして結婚50周年の小禄教会の Mr. Hermie and Nancy Perete ご夫妻、与那原教会の島袋良光・朝子ご夫妻へ祝辞を述べられ、花束が贈呈されました。ウェイン司教のいつもと変わらぬ穏やかな口調、笑顔にて、皆さん一人ひとりが心に一つの感謝のしるしが刻まれたと思います。また、那覇教区のホームページが今回、新しく更新された事が報告され、実際の映像を皆さんに見て頂きました。私たちは新しい変革の時期を迎えているのかもしれません。その後、祝賀会では「かぎやで風」から始まり、カンタ・カトリカ、首里教会と有志の方でのバイオリン演奏、会食、各自歓談、感謝と貴重な話を聞かせて頂くこともでき、賑やかに行われました。準備して頂いた方々もありがとうございました。

ちむがなさ 那覇教区!!!

(文:佐藤芳樹 写真:マーシー・クリストバル)



※「かぎやで風」は、300年以上も沖縄に伝わる宴の座開きとして踊られる祝儀舞踊曲

## 神様と人々への奉仕のために

デニス・フェルナンデス神父 (カプチン会)

「わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し、変わることなく慈しみを注ぐ」(エレミヤ31:3) —これが、私が司祭叙階の時に選んだ聖書の言葉でした。イエス様の司祭として歩んだこの25年間を振り返り、私がふさわしくないにもかかわらず、また弱さをもっているにもかかわらず、神様は私に慈しみを注ぎ、無条件に愛してくださっていると確信しています。私の心は、感謝と同時に、謙遜な思いでいっぱいです。私の人生のなかで働かれる神様と、大きな役割を果たしてくださったすべての人々に、心から感謝の意を表したいと思います。

私の召命の基礎は家族、特に祖父母の祈りの生活のうちに築られました。祖父母は毎朝晩、深い信仰をもって熱心に祈っていました。成長するにつれ、教会の活動、特に祭壇奉仕に侍者として参加することで、いつか司祭になりたいという思いが強くなりました。中学生の時、当時の主任司祭からカプチン会を紹介され、高校でもカプチン会の司祭たちのもとで学びました。高校を卒業した時、カプチン会への入会を決意しました。それから司祭叙階まで、さらに13年間の旅がありました。この間、私は神様の愛、豊かな祝福、多くの人々からの支援と励ましを経験しました。養成を受けていくなかで、神様の恵みは私に、自分が何者なのかに気づかせてくださり、私のなかで少しずつ変化が起こり、修道召命、司祭召命を深めることができました。

神学校時代、インド国内外の宣教師たちの人生経験を聞き、もし宣教師になるチャンスがあれば喜んでそれを受け入れたいという思いが芽生えました。助祭に叙階された時、日本に派遣される宣教師の候補者として私の名前が挙がりました。この提案を受け入れることにはためらいはありませんでした。司祭叙階から数カ月後の2001年9月、私は日本にやってきました。沖縄に着くと、語学の勉強が始まりました。大変な思いをしましたが、那覇教区やさいたま教区の信徒の方々やカプチン会の兄弟たちの支えや励ましのおかげで乗り越えることができました。2年間の語学研修を終え、普天間教会の主任司祭に任命されました。普天間教会で7年間奉仕し、次の任地はさいたま教区でした。視野を広げ、新しい文化を体験し、さまざまな活動とおして奉仕する多くの機会を得ることができました。2018年、私は那覇教区に戻り、小禄教会で奉仕することになりました。そこは故郷に帰ってきたような気がし、皆さんに受け入れられ、愛されていると感じられる場所でした。2021年4月からは真栄原教会の主任司祭を務め、沖縄カトリック中学・高等学校で校長として働かせていただいています。これまでの私の信仰生活や司祭としての歩みを振り返ると、取るに足らない私を、失敗もあったにもかかわらず、選んでくださったのはイエス様であり、イエス様は私に慈しみを注ぎ続けてくださっているとつくづく感じます。

司祭叙階25周年の節目を迎えた今、2月11日の教区の日皆様から頂いたお祈りとお祝いの言葉に感謝いたします。この場をお借りして、私を励まし、導き、信頼してくださっているウエイン司教様、押川名誉司教様、そして私のために祈り続けてくださった那覇教区の司祭・修道者、信徒の皆様は心より御礼申し上げます。また、この節目は、神様と人々への奉仕の精神を新たにする時でもあります。どうかこれからも私のためにお祈りください。私も皆様のために祈ります。ありがとうございました。

## In the service of God and His people.

Fr. Denis Fernandes, OFM Cap.

“I have loved you with an everlasting love, therefore I have continued my faithfulness to you” (Jer 31:3) were the scripture words I had chosen at my ordination time. As I look back on the past 25 years as Jesus' priest, I can confidently say God has been faithful to me and loved me unconditionally, despite of my unworthiness and weaknesses. My heart is filled with gratitude and at the same time with humility I would like to offer my sincere thanks to God and for all those who played a great role in my life.

The foundation for my vocation was laid in my family, especially the prayer life of my grandparents. They prayed with great devotion and faith every morning and evening. As I grew up, my participation in the church activities, especially as altar server, strengthened my desire to be a priest one day. When I was in junior high school, my then parish priest introduced me to the Capuchins and I continued my senior high school studies staying with the Capuchin priests.

When I finished my senior high school, I decided to enter the Capuchin order. From then on, till my ordination it has been a journey of 13 years. During this period, I experienced God's love, abundant blessings, support and encouragement from so many people. As I continued my formation, the grace of God led me to realize who I am, and gradual change took place within me and thus helped me to deepen my religious and priestly vocation.

When I was in seminary, I heard about the life experiences of missionaries, both within India and abroad, and there was a desire within me, if there is a chance to be a missionary, I would willingly accept it.

When I was a deacon, my name was suggested to be a missionary in Japan. I was not hesitant at this proposal. I landed in Japan in September 2001, within few months of my ordination. Once I reached Okinawa, I began my language study. I felt it was hard, but the support and encouragement of friars, lay faithful of Naha and Saitama diocese helped me to overcome the struggle. On completing my two years of language study, I was appointed as the parish priest at Futenma church. I served 7 years in Futenma church, and my next appointment was in the diocese of Saitama. It gave me an opportunity to widen my horizons, experience new cultures and get many opportunities to serve in different ministries. In the year 2018, I came back to Naha diocese, to serve in Oroku church. It was like a home coming, where I felt accepted and loved. From April 2021 onwards, I am ministering in Maehara church and work in the Catholic junior and senior high school. As I look back all these years of my religious and priestly journey, I am very well convinced, it is Jesus who has chosen me, despite my weaknesses, unworthiness and failures and He continues His faithfulness to me.

As I completed 25 years of my priestly life, I am grateful for the wishes and prayers offered on February 11, as we celebrated the Diocese Day. I take this opportunity to thank Bishop Wayne and Bishop emeritus Oshikawa, for their encouragement, guidance and trust in me and all the priests and lay faithful of the Naha diocese for their continued support, understanding and prayers. It is also time for me to renew my commitment in God's service and his people. Do continue to pray for me as I promise you, my prayers. Thank you.

# 2026年2月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2026年2月10日(火) 10:00～12:00 於・安里、教区センター

開式の祈りはウェイン司教が担当、司会はクレーパー神父が担当した。

## 1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(1月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 司教、司祭たちの研修、休暇による不在予定が報告された。  
リカルド神父2/2～4日、大阪。  
ヨアキム神父2/12～3/6日、休暇でベトナムへ。  
ウェイン司教2/16～21日、臨時司教総会等、東京。  
マイケル神父2/24～25日、シノドス研修会のため福岡へ。
- ・ 3月6日の性虐待被害者のための祈りと償いの日についてウェイン司教から解説が行われ、その日のミサの意向を再確認した。
- ・ 2026年度予算について、津波古事務局長から司祭たちに説明が行われた。教区へ報告する際の記載要綱が各主任司祭たちに配られ、2/27日(金)までに記入して事務局へ提出するよう要請が行われた。また、ウェイン司教からは、分からないまま記載するのではなく、小教区の役員さんたちとも相談して、正しく記載されるよう要請が行われた。また合わせて、複数の教区からの請求書も入れてあるので、2月末までに納入するよう要請が行われた。さらに、各小教区からの会計報告に基づいて教区全体の会計報告を県や国に提出することになるため、3月末締め会計報告を4月10日までに教区本部に提出できるよう、今から年度末決算の準備をされるよう合わせて要請が行われた。
- ・ ウェイン司教から、教区内の幼稚園などの土地はすべて教区が所有者となっており、幼稚園等を有する小教区では主任司祭がその土地の責任者となることを司祭たちは理解しておいてほしい。立ち木などが問題となる前に近隣への気配りや挨拶などをし、常日頃からの良好な近所付き合いを大切にしたいとの要請が行われた。
- ・ ブイ神父から、教区女性の会の新年会について報告が行われた。担当者のボスコ神父が休暇中のため、ブイ神父が代理を務め、安里教会に参集した60人余の女性の会のメンバーは、ウェイン司教の講話や質疑後に、食事会と各小教区での活動報告を行ない、親交を深めた。
- ・ 聖フランシスコ年についてマキシム神父から報告と解説が行われた。聖フランシスコの帰天800年を記念して教皇レオ14世が定めたもので、今年1月10日～来年1月10日までの1年間を「フランシスコ年」として定め、全免償のための諸条件も発表されている。那覇教区では、小祿、普天間、与那原の3教会が、フランシスコ年の巡礼指定教会とすることが決められ、恵みの年として大切にされるよう要請が行われた。
- ・ 四旬節中に行われる「愛の献金」についてマーシーさんから解説と要請が行われた。四旬節「愛の献金」はカリタス・ジャパンの取組として行われているもので、その献金はすべてカリタス・ジャパンへ送られる。那覇教区が独自に行う「カリタス献金」とは別なので気を付けて欲しい。また、献金箱等はお金の入ったまま聖堂内に放置しないで、その都度大切に保管し、速やかに教区本部に送金されるよう注意が行われた。
- ・ 教区報の司祭会議議事録に聖年閉幕式報告の記載が漏れていたことが担当司祭から指摘があり、気を修正するよう要請された。
- ・ 教区事務所の世代交代を見据えて、新しいスタッフを採用していく方向で準備を進めていることが司教と事務局長から報告された。
- ・ 先月に引き続き大西神父が司祭会議に参加し、明日の教区の日に出席する。昨年の復活祭後に着任した紙崎神父や浜崎神父も教区民が参集するこの機会に紹介するので、合わせて紹介することとした。また、復活祭後に来沖する大西神父をコザ教会の協力司祭として任命し、現在具志川とコザを兼任しているロドニー神父ではなく、泡瀬教会のヨアキム神父との協力によりコザ教会を担当するよう指示がなされた。したがって、復活祭後はヨアキム神父が泡瀬とコザの主任司祭を兼任し、ロドニー神父は具志川教会のみを担当する。
- ・ クレーパー神父から、3/7日(土)午前10時からカトリック与那原教会で、世界祈祷日の礼拝が行われることが報告された。これは OCC世界祈祷日女性会の主催によるもので、「知ることから祈りへ、祈りから行動へ」をテーマにナイジェリアからのメッセージを受け止める集いとなる。各小教区の信徒たちへも呼びかけを行うよう要請がなされた。

## 2. 審議事項

- ・ 教区の日役割分担が決められた。ミサの進行はマイケル神父、祭壇前のは花はブイ神父、お祝いの方々への花束は教区スタッフが担当し、祝賀会は教区女性の会が担当することが確認された。
- ・ 司教予定について、マーシーさんから報告が行われた。3/15、石川教会公式訪問。4/5、具志川教会公式訪問。それ以降の訪問予定については、別紙で司教の小教区公式訪問の予定表と聖週間の司教予定表が各司祭たちに配られ、協議の上一部追加と時間の調整を行って了承された。
- ・ 聖香油ミサは4/1(水)の18:00から安里で行うことが確認された。
- ・ 司教から、司教的配慮として、灰の水曜日に行われる灰の授与を、当日教会へ来られない方々のために、四旬節第一日曜日のミサの終了後に行っても良いとの見解が示された。典礼的な観点からは、当然「灰の水曜日」に行うことが勧められる。
- ・ 押川司教から、教区報を刷新する時には、タイトルを信徒たちに募集してはいかがかと提案が寄せられた。
- ・ その他：紙崎神父から、典礼について様々な提案が寄せられた。教区として統一した典礼を行うことや、司教訪問と司教の公式訪問は分けて考えてはどうかとの提案が寄せられた。また、特に聖木曜日のミサは、四旬節中に集めた「愛の献金」を奉納するのに最もふさわしい機会なので、主の晩餐を祝うミサの奉献の時に祭壇に運ぶよう勧められていることが紹介された。さらに、司祭会議の前のベネディクションも良いが、司祭たち同士の聖書の分かち合いを行ってはどうか等、様々な提案があった。これらの提案については、今後検討してゆくこととした。
- ・ 具志川教会のロドニー神父から、具志川教会で行われたサントニーニョ祭への協力に感謝が述べられた。

※司祭助祭拡大会議は3月3日(火)午前10時から、安里、教区センターで開催される。

2026年2月20日 承認：ウェイン・バートン司教 記録：新田 選

## 2026年四旬節 教皇レオ14世メッセージ 耳を傾け、断食する —— 回心の季節としての四旬節

### 耳を傾ける

今年はまず第一に、〈耳を傾ける〉ことを通してみことばに場所を与えることの重要性に注目したいと思います。なぜなら、進んで耳を傾ける態度は、他者との関係に入る決意を示す第一のしるしだからです。燃える柴からご自分をモーセに現された神ご自身が、耳を傾けることがご自身の存在の特徴であることをお示しになっています。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞いた」（出エジプト3・7）。抑圧された人々の叫びに耳を傾けることが解放の歴史の始まりです。主はこの解放の歴史にモーセをかかわらせ、奴隷状態に置かれたご自身の子らに救いの道を開くためにモーセを遣わします。人をかかわらせる神は、今日もそのみ心を震わせる思いをもってわたしたちに語られます。そのため、典礼の中でみことばに耳を傾けることは、真の現実に耳を傾けることをわたしたちに教えます。聖書は、わたしたちの個人生活と社会生活の中に響く多くの声の中から、苦しみと不正ゆえに上がる声を認識できるようにしてくれます。それにわたしたちは、応答せずにはいられないようになるのです。このように耳を傾ける内的な態度をもつとは、今日、神から、神〈と同じように〉耳を傾けることを学ばせていただくことです。そこからわたしたちは、「貧しい人々の状況が上げる叫び声が、人類の歴史を通じて、わたしたちの生活、社会、政治・経済体制、とりわけ教会にたえず問いかける」ことを認識します。

### 断食する

四旬節は耳を傾ける季節です。そうであれば、〈断食〉は、神のことばを受け入れる準備となる具体的な実践です。実際、食べ物の節制は古来の修徳的な実践であり、回心の歩みに不可欠なものです。断食は身体にかかわるものだからこそ、わたしたちが何に「飢え」ており、自分を支えるために何が本質的なものであるかを明らかにします。さらに断食は、「欲求」を識別し秩序づけ、わたしたちをつねに義に飢え渴く者とし、諦めから解放し、祈りと隣人への責任へと導くために役立ちます。

聖アウグスティヌスは霊的な洞察をもって、次のように述べて、このように心を守ることに見られる現在の時と未来の完成の間の緊張を垣間見せてくれます。「地上の生活において義に飢え渴くのは人間の務めであるが、この飢えが満たされるのは来世に属することである。天使はこのパンと食物によって満たされる。しかし人間はそれに飢え、皆がそれを望んで手を伸ばす。このように望んで手を伸ばすことが、霊魂を広げ、その能力を拡張する」。このような意味での断食は、欲求を支配し、清め、より自由にするを可能にするだけでなく、欲求を拡張して神に向け、善を行うように方向づけます。

しかし、断食が福音的な真理を保ち、心を傲慢への誘惑から遠ざけるためには、それを信仰と謙遜のうちに実践しなければなりません。断食は主との交わりに根ざしたものであることを必要とします。なぜなら、「神のことばを糧とすることを知らない人は、本当の意味で断食しているとはいえない」からです。断食は、恵みの支えによって罪と悪から離れようとする内的な努力の目に見えるしるしとして、より節度のある生活様式を身に着けるための他のかたちの自己放棄も含むものでなければなりません。なぜなら、「節制だけがキリスト教的生活を強め、真実なものとする」からです。

そのためわたしは、きわめて具体的でありながらあまり評価されていない一つのかたちの自制を行うように皆様を招きます。すなわち、隣人を攻撃し、傷つけることばを控えることです。ことばの武装を取り除くことから始めようではありませんか。辛辣なことば、性急な判断、その場におらず弁解できない人の悪口をいうこと、中傷することをやめようではありませんか。むしろ、ことばを慎み、優しきをはぐくむことを学ぶために努力しようではありませんか。家庭の中で、友人の間で、職場で、〈ソーシャルメディア〉において、政治的な議論において、メディアにおいて、キリスト教共同体において。そうすれば、多くの憎しみのことばは希望と平和のことばに代わることでしょう。

### ともに

最後に、四旬節は、みことばに耳を傾け、断食を行うことの共同体的な次元を明らかにします。聖書もこのような側面をさまざまなかたで強調しています。たとえばネヘミヤ記では、民が律法の書の朗読を聞くために集まり、断食を行って信仰告白と礼拝の準備をし、神との契約を更新したことが語られます（ネヘミヤ9・1-3参照）。同様に、わたしたちの小教区、家庭、教会のグループ、修道共同体も、四旬節に共同の歩みを行うように招かれます。この共同の歩みの中で、神のことばと貧しい人々と大地の叫びに耳を傾けることは、共同生活の一つのかたちとなり、断食が心からの悔い改めを支えます。このような文脈において、回心は、一人ひとりの良心にかかわるだけでなく、人間関係のあり方、対話の質、現実からも問い直され、教会共同体においても正義と和解に飢え渴く人類においても真の欲求を方向づけるもの、それを見いだす能力にもかかわります。

親愛なる友人の皆様。神とともにも貧しい人々にいっそう耳を傾けることができるように、四旬節の恵みを願い求めようではありませんか。人を傷つけることばを減らし、他者の声のための場所を広げることによって、ことばにおいても行う断食の力を求めようではありませんか。そして、わたしたちの共同体が、苦しむ人々の叫びを受け入れ、耳を傾けることで解放の歩みを生み出し、愛の文明を築くことに役立つように進んで努めるものとなるように、努力しようではありませんか。

皆様と皆様の四旬節の歩みを心から祝福します。

（バチカンにて、2026年2月5日）

## 「性虐待被害者のための祈りと償いの日」(2026年3月6日)について

2016年、教皇フランシスコは、子どもに対する教会のメンバーの責任について明確に意識できるように、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けるよう全世界の司教団に通達されました。これを受けて日本の教会は、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を四旬節第二金曜日と定め、祈りと償い、被害者の痛みを学ぶ機会としました。今年のパンフレットには次のように記されています(抜粋)。

### 2026年「性虐待被害者のための祈りと償いの日」にあたって

四旬節は償いと回心の時ですが、この日を教会全体として、罪を償い、特に性被害に遭った方々のために祈り、またその方々の尊厳が回復されるように尽くす決意をするのです。最も弱い立場にある人々を守ることがイエスの生き方であるにもかかわらず、教会の指導的立場にある聖職者が過ちを犯し、被害者の方々に深く傷つけました。日本カトリック司教団として、そのことを真摯に受け止め、被害を受けた方々に心より謝罪いたします。

そして、何よりも「いのちと人権が守られる教会となるために」というタイトルで聖書をもとに「福音の分かち合い」の形で端的に人権を尊重する教会となるための方向を示しています。

### いのちと人権が守られる教会となるために

福音書によると、人々が子どもたちをイエス様に触れていただくために連れてきました。それを見た弟子たちがこの人々を叱りました。(マルコ10: 13)

弟子たちは誰に対して、何を叱ったのでしょうか。

乳児であれば自分でイエスのもたに行くことができませんので、お母さんたちが子どもを連れてきたと考えるのが自然でしょう。そうすると、弟子たちが叱ったのは、イエス様のところに子どもを連れてきた母親たちに対して、こんなところに子どもを連れてくるものではないということで叱ったと考えられます。

そこでイエスが今度は弟子たちに「憤って」いわれたのが次の言葉です。

「子供たちをわたしのところに来させなさい」(マルコ10: 14)

イエスは、弟子たちが子どもたちの立場を否定的に見ていること、もっと言うと、子どもたちの人権を認めようとしないう弟子たちを叱ったのです。

このことばは「そのままにしておきなさい」(フランシスコ会訳)とも訳されており、原語は「ゆるす、そのままにしておく」ということですが、そこから「解放、自由を与える」といった意味となります。

すなわち、イエスは、弟子たちが子どもの本来持っているはずの権利を認めようとせず、疎外したことに憤り、子どもたちを解放しなさい、子どもたちの自由を尊重しなさいと言われたこととなります。

「神の国はこのような者たちのものである」(同10: 14)の「このような者」とは、イエス時代の子どもの代表される、人としての権利を認められていない人々、あるいはその権利を蹂躪されている人々、またその価値や尊厳を踏みにじられている人々のことをいいます。

私たちキリスト者の生き方は、イエスが考えたように考え、イエスが生きたように生きることです。であるならば、この日は、現代において、さまざまな状況において人間の尊厳を無視されている人々のことを思い起こし、祈り、私たちにできる行動をすることが求められている日なのです。

このメッセージは教会での性虐待の被害を受けた方々の尊厳の回復のために、教会のメンバー一人ひとりが何らかの行動を起こすよう促しています。ハンセン病療養所で断種や墮胎の被害を受けた人たちや日本軍による慰安婦制度による被害者の被害実態などを補助線とすることで、声を上げることが難しい者へ想いを馳せることにつながるのではないのでしょうか。そして聞こえない声に触れることにもなるのでしょうか。イエスの紹介する神は「かくれたところで見えておられる」(マタ6: 4)と灰の水曜日のミサの福音で朗読されました。第二バチカン公会議は「教会は秘跡」と紹介しました。カトリック教会が大事にしてきた秘跡とは、「目に見えない神の恵みの目に見える効果的なしるし」と説明されます。一人ひとりが神の恵みのしるしとして秘跡的に生きるためにも、目に見えない人に心を寄せ、声にならない声に耳を傾ける姿勢を大事にしたいものです。(記: 浜崎真実)

### 3月 一日黙想会へのご案内

指導：浜崎眞実（開南教会主任司祭）

テーマ：**イエスは言われた**

- ・日時 3月14日（土）
- ・会場 聖クララ修道院（与那原教会）
- ・受付 09：30
- ・講話 10：00～11：00
- ・休憩 11：00～11：15
- ・個人黙想 11：15～12：15（ゆるしの秘跡：希望者）
- ・昼休み 12：15～13：00
- ・分かち合い 13：00～14：30（各4班に分かれて行います）
- ・掃除 14：30～14：50（会議室と食堂の清掃及び復旧、  
終わり次第、速やかに聖堂へ移動してください）
- ・ミサ 15：00～16：00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円

問合せ先：098-945-2354 098-945-8649

聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

神はわたしを生き返らせ、そのいつくしみに  
よって正しい道に導かれる。

### 「知ることから祈りへ、祈りから行動へ」 世界祈禱日 2026

日時：3月7日（土）午前10時 場所：与那原教会

＜世界祈禱日開催にあたり、NCC女性委員会からのお願い＞

「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」  
マタイによる福音書 11章 28節—30節

世界祈禱日を通して、わたしたちは世界の女性たちと出会い、神によって一つにされ、平和を求めて歩んできました。どんな状況においても、互いに理解しあい、共感と連帯を深めていくことが大切だと信じています。今、世界では、戦禍の中で多くのくいのち > が呻き声をあげています。未来を生きる子どもたちが、砲火に怯え、血を流しながら、飢餓に苦しんでいます。せめてイエスによる安らぎのもので過ごせる日が、一日も早く訪れるようにと祈るばかりです。この世界祈禱日によって、わたしたちが平和の器として用いられることを心から願います。（NCC女性委員会は、現在、プロテスタント・8教派とカトリックの9つの教派と3つの団体が構成されています。）



### NPO 法人ぶどう園の会

### 訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日（申込、相談など）
- ・営業時間 8：30～17：30
- ・営業日 24時間365日（緊急対応含む）

### Book カトリック文化センターからお知らせ セールとのおみの市のご案内

日頃より、カトリック文化センターをご利用頂きまして誠にありがとうございます。当センターでは、4月1日（水）～19日（日）まで（定休日を除く）の期間、書籍、CD、1部の商品を除いた聖具等の10%オフセールとのおみの市を開催いたします。おみの市では、古本、生活雑貨、衣類等を販売します。尚、おみの市の売上の一部はカリタス沖縄へ寄付を致しますので、皆様どうぞ足をお運び下さい。皆様のご来店をお待ちしております。

カトリック文化センター 電話098-868-4649（崎山・城間）



### 葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間  
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

### 葬典社

- \*創業30数年・・・。
- \*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- \*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。  
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ  
（実務担当）比嘉 高茂

24時間  
受付

てんごく  
☎098-853-1059

